

令和5年度 国際文化学科 専門科目 シラバス

科目名	比較文化論 Comparative Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化の一つである宗教をとりあげ、世界各地で営まれているさまざまな宗教について、比較宗教学の観点から学ぶ。具体的には、学生が比較宗教学の観点から、宗教に関する基礎知識を修得するとともに、それぞれの宗教の特徴、各宗教間の同異や関係が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、宗教学、比較宗教学という学問の特徴や、信仰としての宗教ではなく文化としての宗教の概念について学ぶ。次に宗教の原初形態（宗教の起源）や宗教と呪術との関係、さまざまな宗教をグループ分けの際の考え方について学ぶ。続く、比較宗教学が提出してきた宗教の見方に基づいて、宗教的实在観（各宗教が考える本当のもの、真実の存在）、宗教的人間観（各宗教が人間を如何にとらえているか）、宗教的世界観（各宗教が世界をどのように捉えているか）について学ぶ。さらに宗教儀礼、宗教集団、宗教体験、宗教の役割についても学ぶ。 【SDGs : 10, 16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① なぜ宗教を学ぶか。宗教、宗教学とは。 ② 宗教の原初形態（1） ③ 宗教の原初形態（2） ④ 宗教と呪術 ⑤ 宗教の諸類型（1） ⑥ 宗教の諸類型（2） ⑦ 宗教的实在観（1） ⑧ 宗教的实在観（2） ⑨ 宗教的人間観（1） ⑩ 宗教的人間観（2） ⑪ 宗教的世界観 ⑫ 宗教儀礼 ⑬ 宗教集団と社会 ⑭ 宗教体験 ⑮ 宗教の機能 ⑯ 定期試験 		
予復習等	配付されたプリントを整理し、次の授業時間に学ぶ内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『宗教学入門』／著・脇本平也／出版・講談社（講談社学術文庫）		

科目名	民俗学 Folklore	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	民俗の中でも信仰、宗教の分野をとりあげ、各地で見られる民俗宗教を学ぶことを通じて、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解することを目指す。具体的には、学生が民俗宗教に関する基礎知識を修得するとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解するために民俗宗教研究が提出してきた見方、考え方を理解し、それぞれの事例について民俗宗教研究に基づく見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、民俗学、民俗宗教の概念について学ぶ。次に、各地で見られる民俗宗教の例として、本学周辺地区（一日市場地区）で行われている祭礼を紹介し、現状での課題を検討する。次いで、沖縄地方の祭礼と民間宗教者、日本中国地方や東北地方での祭礼の様相や、地域の人々の要望に応える民間宗教者について紹介し、人間と神霊との関係性、民間宗教者の役割を検討する。さらに、韓国での民間宗教者についても紹介する。 【SDGs : 10, 16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 民俗学、民俗宗教について。 ② 大学周辺（一日市場地区）での祭礼 ③ 沖縄伊良部島での祭礼 ④ 沖縄伊良部島での民間宗教者 ⑤ 沖縄、南西諸島の民俗宗教 ⑥ 日本中国地方、東北地方の祭礼 ⑦ 民俗宗教と精霊憑依 ⑧ 日本東北地方の民俗宗教者（1）イタコ ⑨ 日本東北地方の民俗宗教者（2）カミサマなど ⑩ 日本東北地方の民俗宗教者（3）仏教僧侶との関係 ⑪ 民俗宗教研究から見た宗教者の概念 ⑫ シャーマニズム、シャーマンについて。 ⑬ 韓国での事例（1）：韓国での民間宗教者 ⑭ 韓国での事例（2）：珍島の民間宗教者 ⑮ 韓国での事例（3）：儒教祭祀 ⑯ 定期試験 		
予復習等	配付されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	授業内で紹介する。		

科目名	ヨーロッパ文化論 European Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	松井 隆幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	人間の思想のいとなみ・努力に対する尊敬をもってほしい。そのよすがとしてヨーロッパ思想史のひとつの基本線を紹介しします。受講者は、この授業で扱われた本のうち少なくとも一冊を自分自身で実際に読んでみてほしいと思います。学期末の課題としては、その一冊の感想ないし内容の要約をレポートすることを課することになります。		
授業概要	ヨーロッパ思想史の基本線をギリシア的伝統とヘブライ的伝統という二つの流れの合流・総合という大枠でとらえ、これを理解するための基本的知識を伝達することをめざします。そして、その基本線を、ギリシア神話とヘブライ語聖書というそれぞれのはじまりから20世紀の破局的経験に対する哲学者アーレントの思想的対決までたどりおします。一回ごとの授業には1冊か2冊のヨーロッパ思想の古典的著作をとりあげ、その内容を一定の視点から要約紹介することをします。 【SDGs : 3, 16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ホメロス「イリアス」と「オデュッセイア」人間の運命 ② ギリシア神話 人と神の区別 ③ ギリシア悲劇「オイディプス王」「アンティゴネー」悲劇の成立 ④ ソフィストとソクラテス「ソクラテスの弁明」「クリトン」両者のちがひ ⑤ プラトン「ゴルギアス」「国家」ソクラテスから受け継いだもの ⑥ アリストテレス「ニコマコス倫理学」プラトンとのちがひ ⑦ ヘブライ語聖書（1）「創世記」「出エジプト記」一神教 ⑧ ヘブライ語聖書（2）「ヨブ記」神義論 ⑨ イエスと新約聖書（「福音書」愛の教え ⑩ アウグスティヌス「告白」ギリシアとヘブライの総合 ⑪ デカルト「方法序説」科学革命と近代哲学のはじまり ⑫ ロックとヒューム「人間知性論」「人性論」イギリス経験論の帰結 ⑬ カント「純粹理性批判」「道徳形而上学の基礎づけ」批判哲学の立場 ⑭ ヘーゲル「歴史哲学講義」歴史哲学という発想 ⑮ アーレント「人間の条件」20世紀全体主義の経験 ⑯ 		
予復習等	予習は必要ありません。授業でとりあげた本をぜひ手にとって読んでみてください。		
評価方法	レポート100%		
履修条件	なし		
教科書	『ヨーロッパ思想入門』/著：岩田靖夫/出版：岩波書店		
参考書	授業のなかで紹介しします		

科目名	文化人類学 Cultural Anthropology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本やアジアの文化を文化人類学の立場から学ぶことを通じて、価値の多様性を理解することを目指す。具体的には、学生が日本やアジアについて文化人類学による基礎知識を修得するとともに、多様な文化を理解するために文化人類学が提出してきた文化に対する見方、考え方を理解し、アジア各地の事例について文化人類学による見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、文化人類学という学問の特徴や文化の概念、フィールドワークの特徴等を学ぶ。次に、日本やアジア、とりわけ日本の隣国である中国や韓国での生活様式（文化）のなかから、婚姻、家族、親族、出自などをとりあげて、それぞれについて文化人類学による見方や概念を学ぶ。レポートや定期試験では、授業で学んだ文化、婚姻、家族、親族、出自などに関する文化人類学による基礎知識や見方を身につけているかを問うので、復習を欠かさないこと。 【SDGs : 10, 16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 文化人類学について ② 文化について ③ 婚姻（1）婚姻の概念 ④ 婚姻（2）文化人類学が考える婚姻（南インド・ナヤールの婚姻、岐阜県白川村の婚姻） ⑤ 婚姻（3）中国漢族、韓国、日本に冥婚 ⑥ 父と母 ⑦ 家族（1）家族の概念（南インド・ナヤールの家族、岐阜県白川村の家族） ⑧ 家族（2）私たちが考える家族と文化人類学が考える家族 ⑨ 家族（3）日本の家族、韓国の家族、中国漢族の家族 ⑩ 親族（1）親族の概念 ⑪ 親族（2）日本の親族、韓国の親族、中国漢族の親族 ⑫ 出自（1）出自の概念 ⑬ 出自（2）中国漢族の場合、韓国の場合：父系出自 ⑭ 出自（3）その他の地域場合：母系出自、双系出自 ⑮ 出自（4）日本の場合 ⑯ 定期試験 		
予復習等	配付されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は、学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『文化人類学入門』/著：祖父江孝男/出版：中央公論社		

科目名	英米文化論 British and American culture	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	イギリス文化の様々な側面を学び、イギリスを含む英語圏の文化を研究する上で必要な最低限の知識を得ることを目的とします。異文化理解を深めることを通じて、異文化を排除しようとするのではなく、異文化を積極的に、肯定的に受け入れる姿勢を身につけます。また、イギリスを含む英語圏の人々の我々とは異なる価値観や考え方を学び、国際的な視野を持った人間になることを目標とします。		
授業概要	イギリスを中心とした英語圏の社会、文化を概観します。毎回の授業では、キーとなるトピックを一つ取り上げ、該当する箇所の講義を行います。扱うトピックは、「政治・宗教・教育」など以下の授業計画に記載されているトピックです。予習を前提として授業を進めていきますので、指定された箇所をあらかじめ読んでおくことが求められます。また、各週で話題になっている英語圏の国々に関するニュースなどにも触れ、現在のイギリスを中心とした英語圏社会をめぐる状況を理解していきます。 【SDGs：17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス／イギリスについて ② 王室について ③ 政治について ④ 宗教について ⑤ 初等・中等教育について ⑥ 高等教育について ⑦ ジャーナリズムについて ⑧ 大英博物館について ⑨ シェイクスピアについて ⑩ 児童文学について ⑪ 音楽について ⑫ 食生活について ⑬ スポーツについて ⑭ 世界におけるイギリスについて ⑮ まとめ ⑯ 		
予復習等	【予習】 授業で扱う章を事前に読み、配布したプリントの穴埋めをしておくこと 【復習】 参考文献などを読み、授業の内容に関する理解を深めておくこと		
評価方法	授業姿勢（30%）、期末レポート（70%）		
履修条件	なし		
教科書	『On Britain: An Introduction』／著：Adrian J. Pinnington／出版：開文社		
参考書	初回の授業で提示する。		

科目名	文化交流論 Cultural Interaction	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）【開放科目】	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化交流を文化の接触、文化の受け入れととらえ、日本をはじめアジア各地の文化に大きな影響を与えている仏教がインド、中国、日本でどのように展開したかを理解することを目指す。具体的には、学生が仏教の基礎知識を修得し、仏教の内容について説明できるようになることを目標とする。さらには、仏教の基礎知識を修得することによって日本やアジアの文化に対する理解力を深めることが期待される。		
授業概要	はじめに、仏教が生まれる以前からインドで実践されていたバラモン教について学ぶ。次に、釈迦の生涯、釈迦が悟った真理、人間が苦しむ理由、苦しみを除くための修行法、釈迦以後に発生した大乘仏教（仏陀の種類、心の構造、心の清らかさ、などについての考え方）について学ぶ。続いて、中国における仏教の展開として、天台教学、華嚴教学、浄土信仰、禪宗についてとりあげ、また、日本仏教の特色についても学ぶ。 【SDGs：16, 17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 仏教とは。 ② バラモン教、ウパニシャッド哲学 ③ 釈迦の生涯 ④ 釈迦の悟りの内容 ⑤ 苦しみの由来 ⑥ 修行について。 ⑦ 仏教とバラモン教 ⑧ 原始仏教、部派仏教、大乘仏教 ⑨ 大乘仏教（1）：多くの仏陀（仏陀の種類）、空の思想 ⑩ 大乘仏教（2）：唯識説（心の構造）、如来像（清らかな心）六波羅蜜（修行） ⑪ 中国での仏教（1）：天台教学、華嚴教学 ⑫ 中国での仏教（2）：浄土信仰、禪宗 ⑬ 中国での仏教（3）：禪宗の展開 ⑭ 日本での仏教（1）：奈良仏教、平安仏教 ⑮ 日本での仏教（2）：鎌倉仏教 ⑯ 定期試験 		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『仏教入門』／著・高崎直道／出版・東京大学出版会		

科目名	比較文学論 Comparative Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化を受容する際、どのような視点でそれが行われるのかを、日中の古典文学の比較から考える。唐の玄宗と楊貴妃の物語を扱った『唐物語』の内容を、原典となった中国の古典文学作品の内容と比較することで、何が書かれているか、どのような情報が取り入れられているか、逆にどのような情報が取り入れられていないか、またその理由などを理解し、論理的な思考が組み立てられるようになることを目的とする。そこから実生活において、身近にあふれる情報を分析的に見つめ冷静に判断する力を養うことを到達目標とする。		
授業概要	日中の古典文学作品を読み比べる作業から、それぞれの成立の背景や特徴、作品の狙い、作者の意図などを分析し、ものごとの本質を見出すことを目的とした授業である。具体的には中国の故事（お話）を日本語に翻訳した物語集『唐物語』（12世紀後半成立）に収められた「玄宗皇帝と楊貴妃の語（こと）」をゆっくり味わって購読し、そのもととなった中国古典文学作品『長恨歌』・『長恨歌伝』、『楊太真外伝』に表現された楊貴妃像を比較・分析する。そして「なぜそのように表現されているのか」を作者の意図や時代背景などから考える。そのことによって、それぞれの視点から楊貴妃という人物の本質に迫ろうとするものである。 【SDGs：4】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、『唐物語』の概要 ② 『唐物語』購読（1）楊氏の娘・玉環、玄宗の後宮に召される ③ 楊貴妃の魅力についての比較（1）『長恨歌伝』における描かれ方 ④ 楊貴妃の魅力についての比較（2）『長恨歌伝』の意図 ⑤ 『唐物語』購読（2）玄宗の楊貴妃寵愛、世間からの羨望 ⑥ 楊貴妃の政治性についての比較（1）『長恨歌伝』における描かれ方・意図 ⑦ 楊貴妃の政治性についての比較（2）『楊太真外伝』における描かれ方・意図 ⑧ 楊貴妃の政治性についての比較（3）『唐物語』の意図、全体のまとめ ⑨ 『唐物語』購読（3）寵愛の危機—玉の笛の事件— ⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較（1）『楊太真外伝』における描かれ方 ⑪ 楊貴妃の奔放さについての比較（2）『楊太真外伝』の意図 ⑫ 『唐物語』購読（4）長生殿での永遠の愛の誓い ⑬ 『唐物語』購読（5）安禄山の乱起こる、逃避行、楊貴妃殺害 ⑭ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から—（1） ⑮ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から—（2） ⑯ 定期試験 		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストのプリント等を見直し、整理しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	テキストとしてプリントを配布する		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	国際協力論 International Cooperation	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	最近、「SDGs」や「持続可能」という言葉をよく聞くようになっている。「SDGs」や「持続可能」といったことをキーワードに、本講義では、開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの課題をもとに国際協力のあり方を学ぶ。到達目標としては、途上国の貧困問題、基本的人権の問題、地球温暖化、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援といった課題について十分に理解し、説明できることである。		
授業概要	2015年、国連総会において持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)が採択され、日本も積極的にその推進に取り組んでいる。SDGsの具体的目標の中でも、途上国の貧困・飢餓に関わる問題（南北問題と政府開発援助の可能性）、基本的人権の問題（第二次大戦後の国際人権レジームの形成）、地球温暖化に代表される地球環境問題（二酸化炭素排出削減への取り組み等）、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援（国連平和維持活動等）への取り組みは中心的なものである。それゆえ、本講義では開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。それらを考えることは、以下のようにSDGsのすべての項目を考えることにつながる。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：持続可能な開発目標(SDGs)とは ② 貧困問題と開発援助（南北問題と持続可能な開発） ③ 貧困問題と開発援助（政府開発援助） ④ 貧困問題と開発援助（日本のODA） ⑤ 貧困問題と開発援助（ODAの展望） ⑥ 人権問題と国際協力（戦後の人権保護） ⑦ 人権問題と国際協力（冷戦期における人権保護） ⑧ 人権問題と国際協力（冷戦後における人権保護） ⑨ 地球環境問題と国際協力（地球環境問題とは） ⑩ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム1） ⑪ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム2） ⑫ 平和構築の国際協力（平和維持） ⑬ 平和構築の国際協力（平和構築） ⑭ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力） ⑮ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力） ⑯ まとめ 		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各界の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、ISBN 978-4641177222		
参考書	『国際協力—その新しい潮流』／著：下村恭民／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。		

科目名	異文化コミュニケーション Cross-Cultural Communication	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、本学科においてこれまで英語、中国語、韓国語といった言語や英米、ヨーロッパ、アジアの文化を学んできた受講生が、本講義において異文化コミュニケーションの思考と方法を理解した上で、受講生各自が暮らす地域における多文化共生の問題を自ら考え、解決の方法を提示できるようになることである。		
授業概要	<p>本講義では、まず、異文化コミュニケーションの基本概念として、文化やコミュニケーション、多文化主義や間文化主義といった異文化コミュニケーションの重要概念を学ぶ。次に、異文化コミュニケーションの具体的課題として、地域における多文化共生の現状と課題について学ぶ。より具体的には、地域に住む外国人住民に関わる諸問題の存在を知り、それらに対していかなる解決方法が考えられるかを学ぶ。</p> <p>【SDGs : 4, 5, 9, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② 異文化コミュニケーションを学ぶ意義 ③ 文化とコミュニケーション（1） ④ 文化とコミュニケーション（2） ⑤ 異文化コミュニケーションの障壁（1） ⑥ 異文化コミュニケーションの障壁（2） ⑦ 異文化コミュニケーションの障壁（3） ⑧ 深層文化（1） ⑨ 深層文化（2） ⑩ 対人コミュニケーション（1） ⑪ 対人コミュニケーション（2） ⑫ 異文化コミュニケーションの基本概念：多文化主義 ⑬ 異文化コミュニケーションの基本概念：間文化主義 ⑭ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（1） ⑮ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（2） ⑯ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】講義内で紹介する教科書等で各界の講義で扱う内容について予習をすること</p> <p>【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる</p>		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』著・石井敏ほか／出版：有斐閣 ISBN 978-4641281332		
参考書	参考書は講義内で指示する。		

科目名	カレッジ・イングリッシュⅢ College English Ⅲ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業は、主に読解力の向上を目的とする。テキストのさまざまなトピックについて、必要な情報を把握できる速読力を身につける。さらに内容に関する意見をまとめ、それをペアあるいはグループで英語による意見交換をする。こうして英語の4技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）の上達を計る。		
授業概要	<p>目標を達成するため、下記の通り授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) テキスト掲載のエッセイを読み、個人およびグループで発表する。 (2) 単語や慣用表現、文法などについて把握する。 (3) 内容を把握するために問題に取り組む。 (4) エッセイで取り上げられたテーマについて、ペアやグループでディスカッションをする。 <p>【SDGs : 3, 4, 9, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1 The Beauty of the Seasons ③ Unit 2 The History of the Hunburger ④ Unit 3 The Importance of English ⑤ Unit 4 How the Internet Involved ⑥ Unit 5 Liquid Candy ⑦ Review 1 ⑧ Review 2 ⑨ Unit 6 Travel in Japan ⑩ Unit 7 The Secret of Happiness ⑪ Unit 8 Shopping on the Internet ⑫ Unit 9 Do Aliens and UFOs Exist? ⑬ Unit 10 The Happiest Country in the World ⑭ Unit 11 Secondhand Smoke ⑮ Review ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。</p> <p>【復習】授業後に、重要語句や慣用表現、文法を復習すること。エッセイの内容を振り返り、定期試験に備える。</p>		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、発表、小テストその他）50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規程による。（授業の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象とならない）		
教科書	Life Topics 編著：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman / 出版：南雲堂		
参考書	英語辞書必携		

科目名	カレッジ・イングリッシュⅣ College English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業は、主に読解力の向上を目的とする。テキストのさまざまなトピックについて、必要な情報を把握できる速読力を身につける。さらに内容に関する意見をまとめ、それをペアあるいはグループで英語による意見交換をする。こうして英語の4技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）の上達を計る。		
授業概要	<p>目標を達成するため、下記の通り授業を行う。</p> <p>(1) テキスト掲載のエッセイを読み、個人およびグループで発表する。</p> <p>(2) 単語や慣用表現、文法などについて把握する。</p> <p>(3) 内容を把握するために問題に取り組む。</p> <p>(4) エッセイで取り上げられたテーマについて、ペアやグループでディスカッションをする。</p> <p>【SDGs : 3, 4, 9, 17】</p>		
授業計画	<p>① インTRODクシヨン</p> <p>② Unit 12 Plastic Surgery</p> <p>③ Unit 13 What colors tell about you</p> <p>④ Unit 14 Free music</p> <p>⑤ Unit 15 Ghosts</p> <p>⑥ Unit 16 Fast food and health</p> <p>⑦ Review 1</p> <p>⑧ Review 2</p> <p>⑨ Unit 17 Artificial insemination</p> <p>⑩ Unit 18 The dangers of credit cards</p> <p>⑪ Unit 19 Young men: No girls, no money</p> <p>⑫ Unit 20 Old media and new media</p> <p>⑬ Unit 21 Women in college</p> <p>⑭ Unit 22 Gene therapy</p> <p>⑮ Review</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。</p> <p>【復習】 授業後に、重要語句や慣用表現、文法を復習すること。エッセイの内容を振り返り、定期試験に備える。</p>		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、発表、小テストその他）50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規程による。（授業の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象とならない）		
教科書	Life Topics 編著:Takashi Shimaoka, Jonathan Berman / 出版:南雲堂		
参考書	英語辞書必携		

科目名	中級中国語Ⅰ Intermediate Chinese I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語を題材とした各本文を正しく綺麗に読めることをめざし、その文章に出てくる基本単語、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の理解力を高めていく。また中国語を紹介することによって、中国語や中国の社会に関する理解をさらに深めていくことは本講義の目的と到達目標である。更に、学生たちが中国語に対して、興味・関心を持ち、学習の意欲を持つように促す。		
授業概要	<p>本授業は正しい発音で日常会話ができることを目標とする。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う。具体的に文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。二回一課のペースで進めていく予定である。基本表現を繰り返す練習することによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通じて学習内容を定着させる、しかも視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。</p> <p>【SDGs : 4, 5, 16】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス</p> <p>② 第一課 首都北京</p> <p>③ 第一課 練習</p> <p>④ 第二課 民族と気候</p> <p>⑤ 第二課 練習</p> <p>⑥ 第三課 人口</p> <p>⑦ 第三課 練習</p> <p>⑧ 第四課 方言</p> <p>⑨ 第四課 練習</p> <p>⑩ 第五課 泰山</p> <p>⑪ 第五課 練習</p> <p>⑫ 第六課 祝祭日</p> <p>⑬ 第六課 練習</p> <p>⑭ 中国語の発表会</p> <p>⑮ 復習</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 授業前は単語、文法、本文を予習する。</p> <p>【復習】 授業後に習った内容を復習することを少なくとも一時間程度に行うこと。</p>		
評価方法	授業への参加状況：授業の参加態度20%、小テスト20%、定期試験60%。		
履修条件	なし		
教科書	【楽しく学ぼう やさしい中国語（講義編）】 郁文堂 著者：王武曇 張慧娟 朱藝		
参考書	授業中で随時に紹介する。		

科目名	中級中国語Ⅱ Intermediate ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国文化を題材とした各本文を勉強して、正確できれいな中国語の発音を覚え、中国語の読む、聞く、話す、書くなどの技能を学び、中級レベル以上の中国語能力を身につける。音声、映像などを利用して、できるだけ多くの現代中国を知り、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。本講座は、学生が本文で学習した語彙、文法の要点、いろいろな場面の表現を中国語で聞いて理解できる、自分で使える、ことを目指すものとする。		
授業概要	授業では、単語、本文の正しい読み方すなわち発音の確認と、基本的文法の学習、あわせて実際の場面を想定した説明、例文の提示、練習を行う。また、勉強する中で学生が本文中の主な文法を理解するだけではなく、今まで習った単語と組み合わせて応用できる力を養うことも目指す。外国語教育の観点からは、学生が中国語学習を通して、その表現、言い方の日本語との違いを考察し、言語表現に表れる文化的特徴にも学生の興味を促すことも目指す。一課終わるごとに小テストが行うので、復習が必ずやっていく。 【SDGs：4, 16】		
授業計画	① 前期の内容の復習 ② 第七課 飲食文化 ③ 練習 小テスト ④ 第八課 薬膳 ⑤ 練習 小テスト ⑥ 第九課 体育健身運動 ⑦ 練習 小テスト ⑧ 第十課 動物 ⑨ 練習 小テスト ⑩ 第十一課 旗袍 ⑪ 練習 小テスト ⑫ 第十二課 大学 ⑬ 練習 小テスト ⑭ 口頭発表 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	前回の授業で指定した教科書の内容を事前に読んでおくこと。次回の教科書範囲を予習し、新出単語、新出語句、慣用表現、構文を調べておくこと。		
評価方法	出席状況30%、小テスト20%、定期試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	応用中国語Ⅰ Practical ChineseⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語で言いたいことを言ってみたい、中国語検定試験を受けてみたい、加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて、もう少し知ってみたい学生を対象にする。中国語検定試験（4級）の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。日常生活でよく使う中国語としての「読む、書く、聞く、話す」の四つのスキルが備わっていることを目指す。		
授業概要	中国語検定試験（4級）の過去問題を使う。筆記部分の問題を解く過程に重要な文法をピックアップして、説明し練習する。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。中国語ミニ発表機会を用意する。リスニング部分の問題は、発音とリスニングの繰り返し練習を中心に行う。よく使う表現を使って、ペアワーク対話を練習する。 【SDGs：4, 16】		
授業計画	① ガイダンス 中国語検定試験問題4級とは ② 中国語検定試験問題 107回 筆記部分 (1) ③ 中国語検定試験問題 107回 筆記部分 (2) ④ 中国語検定試験問題 107回 リスニング部分 (1) ⑤ 中国語検定試験問題 107回 リスニング部分 (2) ⑥ 中国語ミニ発表 ⑦ 中国語検定試験問題 106回 筆記部分 (1) ⑧ 中国語検定試験問題 106回 筆記部分 (2) ⑨ 中国語検定試験問題 106回 リスニング部分 (1) ⑩ 中国語検定試験問題 106回 リスニング部分 (2) ⑪ 中国語ミニ発表 ⑫ 中国語検定試験問題 105回 筆記部分 (1) ⑬ 中国語検定試験問題 105回 筆記部分 (2) ⑭ 中国語検定試験問題 105回 リスニング部分 (1) ⑮ 中国語検定試験問題 105回 リスニング部分 (2) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】小テストの準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、発表と練習40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	プリント資料を配る		
参考書	授業中随時紹介する		

科目名	応用中国語Ⅱ Practical ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語で言いたいことを言ってみたい、中国語検定試験を受けてみたい、加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて、もう少し知ってみたい学生を対象にする。中国語検定試験（3級）の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。日常生活でよく使う中国語としての「読む、書く、聞く、話す」の四つのスキルが備わっていることを目指す。		
授業概要	後期は、中国語検定試験（3級）の過去問題を使う。筆記部分の問題を解く過程に重要な文法をピックアップして、説明し練習する。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。中国語ミニ発表機会を用意する。リスニング部分の問題は、発音とリスニングの繰り返し練習を中心に行う。よく使う表現を使って、ペアワーク対話を練習する。 【SDGs：4, 16】		
授業計画	① ガイダンス 中国語検定試験問題3級とは ② 中国語検定試験問題 107回 筆記部分 (1) ③ 中国語検定試験問題 107回 筆記部分 (2) ④ 中国語検定試験問題 107回 リスニングの部分 (1) ⑤ 中国語検定試験問題 107回 リスニングの部分 (2) ⑥ 中国語ミニ発表 ⑦ 中国語検定試験問題 106回 筆記部分 (1) ⑧ 中国語検定試験問題 106回 筆記部分 (2) ⑨ 中国語検定試験問題 106回 リスニングの部分 (1) ⑩ 中国語検定試験問題 106回 リスニングの部分 (2) ⑪ 中国語ミニ発表 ⑫ 中国語検定試験問題 105回 筆記部分 (1) ⑬ 中国語検定試験問題 105回 筆記部分 (2) ⑭ 中国語検定試験問題 105回 リスニングの部分 (1) ⑮ 中国語検定試験問題 105回 リスニングの部分 (2) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】 小テストの準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、ミニ発表と練習40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	プリント資料を配る		
参考書	授業中随時紹介する		

科目名	中級中国語会話Ⅰ Intermediate Chinese ConversationⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は、1年生で習った中国語の発音、基礎文法知識を復習しながら、新しい単語と文法を学んでいき、人と中国語で会話ができるように、伝える力と聞く力を身につけることを目的とする。毎回の授業の中で中国語の特徴である声調を意識しながら、単語や短文を正しく発音できるように練習し、旅行やビジネス場面に必要な基礎の会話能力を身につける。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。テキストに沿って、発音練習や文法の説明、練習問題などを行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を繰り返す。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う（小テスト結果も授業評価の一部とする）。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 発音の復習（第1課～第3課） ② 第4課 你贵姓？ ③ 第4課の文法と練習 ④ 第5課 你去哪儿？ ⑤ 第5課の文法と練習 ⑥ 第6課 我想喝普洱茶。 ⑦ 第6課の文法と練習 ⑧ 第7課 你喜欢什么？ ⑨ 第7課の文法と練習 ⑩ 第8課 中国队太厉害了！ ⑪ 第8課の文法と練習 ⑫ 中国語の歌 ⑬ 会話作成の練習 ⑭ 中国語検定の練習 ⑮ 前期の復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】 前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基（2,500円＋税）		
参考書	なし		

科目名	中級中国語会話Ⅱ Intermediate Chinese Conversation II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は、旅行やビジネスに必要な基礎会話能力を身につけることを目的とする。中国語の特徴である声調を意識しながら、単語や短文を正しく発音できるよう、また聞き取れるように練習を繰り返す。意欲の高い人は中国語検定3級合格を目指すといいい。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外出経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点を時間をかけて説明する。テキストに沿って、発音練習や文法の説明、練習問題などを行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を繰り返す。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う（小テスト結果も授業評価の一部とする）。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。</p> <p>【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 前期の復習 ② 第2課 中国方言多, 民族也多。 ③ 第2課の文法と練習 ④ 第3課 坐地铁去吧 ⑤ 第3課の文法と練習 ⑥ 第4課 用手机上网查査。 ⑦ 第4課の文法と練習 ⑧ 第5課 我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 第5課の文法と練習 ⑩ 第6課 你弹的古筝太好听了! ⑪ 第6課の文法と練習 ⑫ 第7課 学习中文写作 ⑬ 第7課の文法と練習 ⑭ 第8課 学习中文写作 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。</p>		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する。『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基（2,500円＋税）		
参考書	なし		

科目名	韓国語（会話Ⅰ） Korean（ConversationⅠ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業では、「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」の学習の上に、韓国語で初級レベルの日常会話がさらにできるようになることを最終目標とする。具体的には、韓国語で挨拶や自己紹介ができるようになること、韓国人と接した際に簡単な会話がさらにできるようになることを目的とする。韓国に対する関心、興味、理解が深まることを目的に授業展開を目指す。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関等で通訳、翻訳の経験あり】</p> <p>実務経験に基づき、受講者が習得に困難を感じると考えられる点に関しては時間をとって説明する。テキストにしたがって授業を進める。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。それによって受講者が韓国語の会話能力を高めていくことを目指している。各回の講義内容は一応次のように予定しているが、時間の関係と到達度で若干前後する場合がある。常に予習復習を心掛けてほしい。</p> <p>【SDGs：4, 9, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② -는(動詞の現在連体形), -기 전에, -겠-/ 第1課 「제 친구를 소개하겠습니다」 ③ -(으)세요, -고, -아/어 주세요 /第2課 「이메일 주소도 좀 알려주세요」 ④ -(으)까요?, -(으)ㄴ(形容詞・指定詞の現在連体形), -게/第3課 오늘 점심 뭘로 할까요? ⑤ -(으)면, -아야/어야 되다, -(으)려면/第4課 「1호선을 타면 인사동에 가요?」 ⑥ K-POPで習う韓国語表現① ⑦ -아/어 보다, -아도/어도 되다, -(으)ㄴ데/第5課 「한번 신어 봐도 돼요?」 ⑧ -(으)래요, -(으)니까, -지만/第6課 「명동에 같이 갈래요?」 ⑨ -아서/어서, -거든요, -(으)ㄴ(動詞の過去連体形)/第7課 「가르친 경험이 있어서 괜찮아요」 ⑩ -(으)ㄴ 것 같다, -는데, -지 않다/第8課 「감기 걸린 것 같아요」 ⑪ K-POPで習う韓国語表現② ⑫ -(으)러, -아/어 있다, -네요/第9課 「핸드폰을 찾으러 왔는데요」 ⑬ -(으)ㄴ 수 있다/없다, -(으)ㄴ 것 같다, -(으)ㄴ 때/第10課 「고장 신고를 인터넷으로 할 수」 ⑭ -(으)면 안 되다, -(으)ㄴ(未来連体形), -잖아요/第11課 「대신 반납해 주면 안 돼요?」 ⑮ -(으)면서, -(으)ㄴ 생각이다, 못/第12課 「쉬면서 대학원 준비할 생각이예요」 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】毎回授業の復習に努めること。</p>		
評価方法	発表及び提出物20%、授業態度10%、小テスト30%、定期試験40%(授業回数3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	「韓国語(入門Ⅰ・Ⅱ)」の単位を履修していること		
教科書	『ロールプレイで学ぶ韓国語 初級～中級へ』/著：睦宗均、須賀井義教/白水社		
参考書	なし。		

科目名	韓国語（会話Ⅱ）	単位数	1
	Korean（ConversationⅡ）	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	韓国に対する関心、興味、理解が深まることを目指しながら、韓国語の実践的会話能力を身につけることを目的とする。「初級韓国語（Ⅰ・Ⅱ）」「韓国語（会話Ⅰ）」の学習の上に、短いフレーズでも積極的にコミュニケーションができる力を養うことを目標とする。具体的には、初級韓国語で学んだ文法をふまえ、語彙を増やしつつ、それを会話に生かして使えるよう練習を行う。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関等で通訳、翻訳の経験あり】</p> <p>実務経験に基づき、受講者が習得に困難を感じると考えられる点に関しては時間をとって説明する。テキストにしたがって授業を進める。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。それによって受講者が韓国語の会話能力を高めていくことを目指している。各回の講義内容は一応次のように予定しているが、時間の関係と到達度で若干前後する場合がある。常に予習復習を心掛けてほしい。</p> <p>【SDGs：4, 9, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 第1課 こちらへどうぞ ③ 第2課 ウォンに換えてください ④ 第3課 まっすぐ行くと4番出口に出ます ⑤ 第4課 いま部屋に入れますか ⑥ 第5課 自分で買わなきゃいけないんですか ⑦ 第6課 どこで何時に会いましょうか ⑧ K-POPで習う韓国語表現① ⑨ 第7課 二人ともかわいいでしょ？ ⑩ 第8課 辛いものも食べられる？ ⑪ 第9課 辛さ控えめにしてもらえますか。 ⑫ 第10課 一度も聞いたことないじゃないですか ⑬ 第11課 3万5千ウォンにしてもらっちゃだめですか ⑭ 第12課 どうしても遅くなりそうです ⑮ K-POPで習う韓国語表現② ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。</p> <p>【復習】 毎回授業の復習に努めること。</p>		
評価方法	発表及び提出物20%、授業態度10%、小テスト30%、定期試験40%（授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない）		
履修条件	「初級韓国語（Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語会話Ⅰ」の単位を履修していること		
教科書	『コミュニケーション韓国語 聞いて話そうⅡ』／著：長谷川由起子、張ユンヒョン／出版社：白帝社		
参考書	なし。		

科目名	韓国語（文法・読解Ⅱ）	単位数	1
	Korean（Grammar and ReadingⅡ）	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「韓国語入門Ⅰ・Ⅱ」「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項をさらに習得し、韓国語の基本的な表現がさらにできるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な文法事項を習得し、基本的な読解ができるようになることを目標とする。授業で学んだ文法事項を習得しているか、授業やテキストで示された文章が読みとれるかが評価の対象になる。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：在外公館での翻訳、通訳に経験あり。】</p> <p>配布するプリントにしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から、日本人が取得に困難を感じると思われる点については時間を取って説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問の答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>【SDGs：10, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ～で（場所、手段） ② ㅁ不規則変化、ㄹ不規則変化、理由(으)니까 ③ ～に（誰に）、～ですね。 ④ 名詞を修飾する形 ⑤ ㄷ不規則変化、理由아서 ⑥ 理由기 때문에 ⑦ 文章の接続 ⑧ 推測、推量 ～のようです、～でしょう ⑨ ～ならば、 ⑩ ～できる、～できない ⑪ 文末表現（1） ⑫ 文末表現（2） ⑬ 間接話法（1） ⑭ 間接話法（2） ⑮ 不規則変化・復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	プリントの中から次回の授業で学ぶ範囲の単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業内容の復習に努めること。		
評価方法	テスト50%、出席状況及び授業態度50%		
履修条件	「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。		

科目名	国際経済論 International Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国際社会における経済の状況を学び、国際経済について考察し、国際社会の経済問題について自ら考えること出来るようになる。特に教育と社会資本整備の重要性を学びつつ、国際社会における女性の実情を知り、自身が国際社会に参加する意義を学習する。これによりグローバル社会の一員であることを理解し、自らの選択について考え、SDGsをはじめとした国際社会の課題を説明し、対処できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	地球規模で経済が繋がるようになり、グローバリゼーションという言葉は日常に深く根差すようになった。日欧EPAやアジア・大洋州の大部分を包括する連携協定（RCEP）など国際取引を促進させる協定が次々に締結され、国際的な物流の変化は日常生活にも大きな影響を与えている。しかし世界の人々が享受する豊かさには大きな偏りがあり、米国前大統領のトランプ氏に代表されるように、近年では急速な自由化に懸念を抱く考え方も表面化している。本講義では、途上国を中心に様々な国の経済事情について学びながら、国際的な経済の繋がりと豊かさ、貧困と開発（SDGs）について考えるものとする。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに一オリエンテーション ② 貿易利益(1)―国際分業 ③ 貿易利益(2) ―比較優位の考え方 ④ 私達の生活水準―先進国と絶対的貧困 ⑤ 豊かさの捉え方(1)―GDPの基礎概念 ⑥ 豊かさの捉え方(2)―HDIとHAI ⑦ 経済成長と女性の力 ⑧ 経済的脆弱性―EVI ⑨ 様々な途上国(1)―後発開発途上国 ⑩ 様々な途上国(2)―小島嶼開発途上国 ⑪ 様々な途上国(3)―内陸開発途上国 ⑫ 貿易と産業構造 ⑬ 保護貿易の功罪 ⑭ FTA・EPAとグローバリゼーション ⑮ 総括と質疑応答：グローバリゼーションの光と影 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】 諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】 提示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	興味を持って講義に臨む。必須ではないが「生活と経済」を受講していることが望ましい。		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する（プリント、簡略化したスライド資料）。		
参考書	講義中に適宜参考資料を紹介するが、購入は必要ではない。		

科目名	観光論 Tourism	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	早川 秀昭	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「観光（旅）」と社会生活や産業活動との関係を考察し、その経済的役割についての理解を深め、社会における意義を観光産業の視点から考える。「観光」の関口は広いので、その「学びの関口の広さ」から観光を学ぶことを通して問題発見能力―「何が必要か」「何が問題か」、そして問題解決能力―「そのために何をすべきか」「どのようにすれば解決できるか」を創造的に考える力を養い、身に着けることの大切さを理解させる。		
授業概要	【担当者の実務経験：旅行会社にてカウンターセールス、外回り営業、添乗業務および財務担当として決算業務の経験あり。】 21世紀は観光の時代である」といわれるが、人間が人間らしく生き、人生を充実させていくうえで「観光（旅）」は不可欠である。「観光（旅）」に関わる基本的な事柄を踏まえ、観光ビジネスの特性と、観光ビジネス分野で起きていることや今後の展望について学んでいく。また地域に関して、地域がなぜ「観光振興」に熱心取り組むのか、観光消費の産業関連（地域波及）の流れと、観光と地域振興、観光とまちづくりとの関わりにも焦点を当てていく。「観光（旅）」と密接に結びついている歴史・文化の観点も加味しながら、「観光（旅）」の持つ楽しさも同時に学んでいく。 【SDGs：3, 9, 11】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション―観光を学ぶ意義と観光の様々な効果 ② 観光にかかわる言葉 ③ 観光のしくみ ④ 観光資源と観光対象 ⑤ 観光産業の構成と特徴 ⑥ 様々な観光ビジネス―旅行業 ⑦ 様々な観光ビジネス―宿泊産業 ⑧ 様々な観光ビジネス―交通運輸業 ⑨ 様々な観光ビジネス―テーマパーク、スキー場、展示鑑賞施設、土産品業 ⑩ 観光と情報 ⑪ 観光政策と観光行政 ⑫ 観光のマーケティング ⑬ 旅の歴史とこれからの旅行 ⑭ 観光と国際経済・社会・文化―インバウンドと異文化理解 ⑮ まとめ―サステイナブルツーリズムとユニバーサルツーリズム ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】 教科書の授業に該当するところをよく読んでおくこと。 【復習】 授業で学んだことをふまえ、実際に「旅」に出て、自分の目で観光がどのように地域経済にかかわっているのか、人間形成にどんな影響を与えているのかを考えてみる。		
評価方法	定期試験（90%）に出席状況等（10%）を加味して評価する。		
履修条件	なし		
教科書	『観光学基礎 観光に関する14章』/ 出版：株式会社JTB総合研究所		
参考書	なし		

科目名	専門演習 Seminar	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	専門演習に関連したテーマについて、各担当教員の指導のもと、研究に関する知識を身につける。学生自らが文献調査を行い、問題を発見し、分析・解析していく能力を養う。また、口頭発表の仕方、論文・レポートの書き方を学ぶ。情報系の専門演習では、プログラミングについて学ぶ。さらに、卒業研究に向けて動機付けを行う。		
授業概要	各担当教員によるゼミ形式で実施する。ゼミは、1年生の後期に実施されるゼミ説明会に出席して、自分の研究分野と指導教員を決める。ゼミ配属が決定した後、各担当教員の指導に従い、各自研究テーマを設定し、調査・研究を行い、その成果を口頭発表して、レポートにまとめていく。それを通じて、各自、卒業論文、卒業研究のテーマを絞り込んでいき、後期の卒業研究につなげる。 【SDGs : 10, 17】		
授業計画	① (文化・文学) 文献講読 (1) (情報) プログラミングの基本と実行 (1)	② (文化・文学) 文献講読 (2) (情報) プログラミングの基本と実行 (2)	③ (文化・文学) 文献講読 (3) (情報) プログラミングの基本と実行 (3)
	④ (文化・文学) 文献講読 (4) (情報) プログラミングの基本と実行 (4)	⑤ (文化・文学) 文献講読 (5) (情報) プログラミングの基本と実行 (5)	⑥ (文化・文学) 文献・調査研究 (1) (情報) テキストによるプログラム学習 (1)
	⑦ (文化・文学) 文献・調査研究 (2) (情報) テキストによるプログラム学習 (2)	⑧ (文化・文学) 文献・調査研究 (3) (情報) テキストによるプログラム学習 (3)	⑨ (文化・文学) 文献・調査研究 (4) (情報) テキストによるプログラム学習 (4)
	⑩ (文化・文学) 文献・調査研究 (5) (情報) テキストによるプログラム学習 (5)	⑪ (文化・文学) 卒論主題設定 (1) (情報) テキストによるプログラム学習 (6)	⑫ (文化・文学) 卒論主題設定 (2) (情報) テキストによるプログラム学習 (7)
	⑬ (文化・文学) 卒論中間報告 (1) (情報) テキストによるプログラム学習 (8)	⑭ (文化・文学) 卒論中間報告 (2) (情報) プログラム課題 (1)	⑮ (文化・文学) 卒論中間報告 (3) (情報) プログラム課題 (2)
	⑯		
予復習等	毎回各担当教員の指導に従って予習、復習に努めること。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	2年生に進級するのに必要な合計単位数が取得できていること。		
教科書	各担当教員が提示する。		
参考書	各担当教員が提示する。		

科目名	卒業研究 [国文] Graduation Thesis/Graduation Works	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	各担当教員による指導のもと、学生自らが問題意識を持って、各自が関心をもつテーマを研究し、卒業論文または卒業作品を作成する。これを通じて、課題発見能力、課題分析・解決能力、計画遂行能力、成果の報告能力を身につける。		
授業概要	学生各自の2年生前期の専門演習での成果を基に、引き続き各担当教員の指導によってゼミ形式で実施する。各自が研究テーマや研究計画を立て、これに基づいて調査・研究を進めていく。その成果を卒業論文または卒業制作としてまとめる。 【SDGs : 10, 17】		
授業計画	① (文化・文学) 文献講読 (1) (情報) テーマの決定	② (文化・文学) 文献講読 (2) (情報) データ収集 (1)	③ (文化・文学) 文献講読 (3) (情報) データ収集 (2)
	④ (文化・文学) 文献講読 (4) (情報) データ収集 (3)	⑤ (文化・文学) 文献講読 (5) (情報) データ収集 (4)	⑥ (文化・文学) 文献講読 (6) (情報) データ収集 (5)
	⑦ (文化・文学) 文献・調査研究 (1) (情報) プログラム作成 (1)	⑧ (文化・文学) 文献・調査研究 (2) (情報) プログラム作成 (2)	⑨ (文化・文学) 文献・調査研究 (3) (情報) プログラム作成 (3)
	⑩ (文化・文学) 文献・調査研究 (4) (情報) プログラム作成 (4)	⑪ (文化・文学) 文献・調査研究 (5) (情報) プログラム作成 (5)	⑫ (文化・文学) 文献・調査研究 (6) (情報) プログラム作成 (6)
	⑬ (文化・文学) 卒論発表 (1) (情報) プレゼンテーション作成 (1)	⑭ (文化・文学) 卒論発表 (3) (情報) プレゼンテーション作成 (2)	⑮ (文化・文学) 卒論発表 (3) (情報) 卒業研究発表
	⑯		
予復習等	毎回各担当教員の指導に従って予習、復習に努めること。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	2年前期の専門演習の単位を取得していること。		
教科書	各担当教員が提示する。		
参考書	各担当教員が提示する。		

科目名	やさしい日本語（作文） Plain Japanese (Composition)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>「やさしい日本語」の意味や社会において果たす役割などを理解した上で、場面や目的に応じた表現を工夫できるようになることを授業目的とする。その上で、場面や相手に応じて、より分かりやすく伝えるために、普段から難解な文章をやさしくかみ砕いて変換しようとする姿勢を身につけられようようになること、文章表現を磨くと同時に、話し方や応対の上でも相手の身になった振る舞いの必要性を理解し、実践できるようになることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>日本語を母語としない相手に分かりやすく伝えるための「やさしい日本語」を実践的に習得する。「やさしい日本語」を用いて、自分の言いたいことを相手に分かりやすく表現するために、語彙の選択や表現方法の工夫なども視野に入れ、グループで各場面に応じた発話を考えて発表する。自分が何を伝えたいか、伝えるべき重要な情報は何かを整理すると同時に、相手が何を知りたいか、何を求めているかを思いやる力を磨く。語彙を増やすことや作文の技術だけでなく、相手に対するやさしくあたたかい姿勢や、他者を配慮する心も磨く。</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、「やさしい日本語」への知識を高める ② 「やさしい日本語」以前に必要な姿勢とは ③ 寄り添う気持ちと求められる態度—話の聞き方演習— ④ 「やさしい日本語」の基本（1）、作文演習（1） ⑤ 「やさしい日本語」の基本（2）、作文演習（2） ⑥ 「やさしい日本語」の基本（3）、作文演習（3） ⑦ 「やさしい日本語」の基本（4）、作文演習（4） ⑧ 「やさしい日本語」の応用（1）、作文演習（5） ⑨ 「やさしい日本語」の応用（2）、作文演習（6） ⑩ 「やさしい日本語」の応用（3）、作文演習（7） ⑪ 「やさしい日本語」のポイント（1）作文演習（8） ⑫ 「やさしい日本語」のポイント（2）作文演習（9） ⑬ 「やさしい日本語」のポイント（3）作文演習（10） ⑭ 「やさしい日本語」作文演習（11） ⑮ 「やさしい日本語」作文演習（12） ⑯ 定期試験 		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストやプリント等を見直し、整理しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『「やさしい日本語」で伝わる！公務員のための外国人対応』／岩田一成他／学陽書房		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	海外言語・文化演習 Language and Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>英語圏、中国語圏、韓国での研修を通じて、これまで学んだ英語、中国語、韓国語の能力を基に、それぞれの研修先での大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけたそれぞれの言語を使って英語圏、中国語圏、韓国の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。</p>		
授業概要	<p>国際コミュニケーション学科の「海外言語・文化演習（英語圏）」、「海外言語・文化演習（中国語圏）」、「海外言語・文化演習（韓国語）」を参照すること。研修先の大学においてネイティブスピーカーの現地教員による言語および文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。滞在先での滞在は8～10日程度を予定している。参加者は帰国後、課題の提出を求める。</p> <p>【SDGs：10, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出。 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ 		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%。		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		